

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 3月 6日

東京都福祉サービス評価推進機構
 公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 [REDACTED]
 所在地 [REDACTED]

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号 [REDACTED] 機構 20 - 253

電話番号 [REDACTED]
 代表者氏名 [REDACTED]

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	[REDACTED]	経営	[REDACTED]
	②	[REDACTED]	経営	[REDACTED]
	③	[REDACTED]	福祉	[REDACTED]
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ		指定番号を入力してください	
評価対象事業所名称	白金台学童クラブ			
事業所連絡先	〒	108-0071		
	所在地	東京都港区白金台4-6-2 ゆかしの杜6階		
	TEL	03-6450-4014		
事業所代表者氏名	星緑			
契約日	2024年 5月 23日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2024年 10月 11日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 27日			
自己評価結果報告日	2024年 10月 11日			
訪問調査日	2024年 11月 6日			
評価合議日	2025年 3月 6日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者本人・保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にておこない回答して本評価機関へ返送してもらう形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
 本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>(1)第二の家庭（児童・保護者にとって安心できる場所） (2)遊びを通し成長する (3)自分の気持ちを言える (4)相手を尊重する (5)協力して工夫する</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶ができる ・児童の見本となる言葉遣いや行動ができる ・当事者の気持ちを考え、思いやりを持って接する ・与えられた仕事、役割を着実に遂行する ・報連相ができる ・コミュニケーションがとれる <p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が無事に怪我なく過ごせるよう、安全に配慮し運営すること ・児童が楽しめる企画、運営をすること ・向上心を持ち、自身が成長できる工夫をすること ・保護者の気持ちになって、会話や報告をすること ・施設や自身の立場を考えた、言動や行動をすること

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

66

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
66	0	66
38	0	38
57.6	0.0	57.6

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が52.6%、「満足」は29.0%、「どちらともいえない」が7.9%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて81.6%という、高い評価を得ています。また、利用者本人の回答が79.5%と非常に高く、より実態に即した意見を得ています。自由記述では「先生が優しいです。」というコメントのほか、バスケットゴールが壊れかけているので、新しいものを買ってほしい、おやつの種類やおかわりの回数を増やしてほしい、もう少しおもちゃを増やしてほしい、遊戯室で遊ぶ時間を増やしてほしい、などの意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	25	11	1	1
この項目では「はい」の回答が65.8%、「どちらともいえない」は29.0%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は2.6%という結果となりました。自由記述では、あそぶ道具が少ない、という意見が寄せられていました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	20	15	1	2
この項目では「はい」の回答が52.6%、「どちらともいえない」は39.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は5.3%という結果となりました。自由記述では、話は聞いてもらえるが改善されたと感じない、という意見が寄せられていました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	27	6	3	2
この項目では「はい」の回答が71.0%、「どちらともいえない」は15.8%、「いいえ」が7.9%、「無回答・非該当」は5.3%という結果となりました。自由記述では、おやつや種類の量を増やしてほしい、という意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	19	6	5	8
この項目では「はい」の回答が50.0%、「どちらともいえない」は15.8%、「いいえ」が13.1%、「無回答・非該当」は21.1%という結果となりました。自由記述では、意見を聞いてもらえるが採用されることは少ない、という意見が寄せられていました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	23	8	3	4
この項目では「はい」の回答が60.5%、「どちらともいえない」は21.1%、「いいえ」が7.9%、「無回答・非該当」は10.5%という結果となりました。自由記述では、月間目標などは伝えられていなかったと思う、という意見が寄せられていました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	18	15	5	0
この項目では「はい」の回答が47.4%、「どちらともいえない」は39.5%、「いいえ」が13.1%、「無回答・非該当」は0%という結果となりました。自由記述では、片付いている時と片付いていない時がある、という意見が寄せられていました。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	20	8	4	6
この項目では「はい」の回答が52.6%、「どちらともいえない」は21.1%、「いいえ」が10.5%、「無回答・非該当」は15.8%という結果となりました。自由記述では親近感があり楽しいといった意見がありました。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	5	0	6
この項目では「はい」の回答が71.1%、「どちらともいえない」は13.1%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は15.8%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	4	1	6
この項目では「はい」の回答が71.1%、「どちらともいえない」は10.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は15.8%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	24	5	1	8
この項目では「はい」の回答が63.2%、「どちらともいえない」は13.1%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は21.1%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	19	7	2	10
この項目では「はい」の回答が50.0%、「どちらともいえない」は18.4%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」は26.3%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	16	8	4	10
この項目では「はい」の回答が42.1%、「どちらともいえない」は21.1%、「いいえ」が10.5%、「無回答・非該当」は26.3%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	7	5	16
この項目では「はい」の回答が26.3%、「どちらともいえない」は18.4%、「いいえ」が13.1%、「無回答・非該当」は42.2%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念や行動規範、運営方針を周知徹底し、職員と利用者の理解を深めています ホームページに情報を掲載し、玄関やクラブ室に活動表や目標を掲示して広く周知しています。職員に対し、年度始めのキックオフミーティングで企業理念や行動規範、教育事業部運営方針、施設の年間目標の読み合わせを職員全員で実施して共有を図っています。また、施設長は本部の施設長会議、管理者会議に参加し、内容を職員に報告・回覧し共有しています。新入職員には職員マニュアルや本部研修で周知しています。利用者には、入会説明会や見学、入会時に重要事項説明を配付し直接説明しています。クラブだよりや保護者会でも説明をおこなっています。	
	理念の実現に向けて法人の方針の確認と共有をおこない職員の役割と責任を伝えています 理念の実現に向けて、年度始めに全常勤職員が参加するキックオフミーティングを開催し、本部マネージャーが理念や行動規範、事業方針を説明しています。また、施設長と法人代表や役員との語らう会を設けて方針を共有するほか、施設長会議や管理者会議の内容を施設長から職員ミーティングで職員に周知し、議事録を全職員に回覧し共有しています。入社時研修や階層別研修、法人全体の研修、書籍の配付など多様な機会に職員の役割と責任を伝えています。各会議や施設内外研修で、法人が目指す育成や方向性の確認や話し合う機会を設けて共有しています。	
	重要案件の決定手順と連絡内容を周知徹底するための仕組みと体制を整備しています 重要案件は理事会や法人本部の会議で審議・決定しています。決定事項は施設長会議または管理者会議を経て、職員会議やミーティングで全職員に伝達しています。欠席職員には上長から直接伝え、議事録の回覧と確認印により、周知漏れを防ぐ仕組みがあります。保護者には保護者会やクラブだより、クラブ内掲示、連絡帳を通じて必要な情報を伝達しています。施設の事業など現場に裁量権がある内容については、職員会議の話し合いなどで各職員の意見を集約した上で施設長が最終決定をしています。外部イベントなどは本部の承認を得る仕組みになっています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者や職員の意見を積極的に取り入れ、運営に反映する仕組みを整えています</p> <p>保護者からの意見収集には、意見箱の設置、保護者会や個人面談、送迎時の対話、連絡帳や連絡アプリを活用しています。児童向けには意見箱「なないろBOX」を設置し、意見に対する返答を掲示しています。職員の意見は、日々の会話や定期的なミーティング、年3回の職員面談、新入社員向けのブラザー&シスター制度による毎月の面談などで収集しています。また、年1回の意向調査や自己他己評価シートでも意向の把握をおこなっています。収集した要望や意見は、職員全員でその場や後日のミーティングで検討し、具体的な改善策として反映しています。</p> <p>地域や業界のニーズなどを情報収集し、中長期計画の策定に反映する取り組みがあります</p> <p>地域や業界のニーズを把握するため、自治体の巡回指導や学童クラブ施設長連絡会、地域懇談会などに参加し情報収集をしています。また、メディアや行政からの情報収集、本部施設長会議での情報交換も実施しています。把握したニーズや課題は、ミーティングや職員会議で共有し、必要に応じて本部と相談しながら対応を検討しています。本部の教育事業部が中長期計画を策定するほか、施設独自の5か年の中長期計画を策定し、年度始めのキックオフミーティングで職員と共有しています。施設長はそれらをもとに毎年度末に次年度の事業計画を策定しています。</p> <p>具体的な数値目標を設定し計画の実行と進捗を定期的に確認する仕組みを整えています</p> <p>職員は年度始めに自己目標達成シートを用いて具体的な数値目標を設定し、半年後と年度末に進捗を確認しています。新入職員は毎月目標を立て、世話役職員と確認しています。定期的なミーティングで進捗状況を確認し、必要に応じて計画の見直しをおこなっています。毎月の事業報告書などは自治体に提出しています。年度末には事業計画の振り返りシートを作成し、次年度の計画に反映させています。自己他己評価シートのほか、事業ごとにミーティングで反省を実施し、指導案・報告書には変更点・課題の欄を設けて次年度への申し送りをしています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>組織全体で法令遵守と倫理意識の徹底と向上を図る組織的な取り組みがあります</p> <p>職員には就業規則を含む職員マニュアルを配付し、年度始めのキックオフミーティングで行動規範の読み合わせを実施しています。全職員はセルフチェックシートを毎週、心構えチェックシートを毎月実施し、自身の行動を振り返る機会を設けています。施設長やエリアマネージャーがそれらの内容を確認し、必要に応じて面談指導をおこなっています。また、全職員がコンプライアンスや心得に関する研修や動画研修を受講し、報告書を提出しています。ハラスメントや不適切指導に関する相談窓口を設置し、ポスターで周知するなど、組織的な体制を整えています。</p> <p>利用者の意向と虐待防止に対する体制を整え、継続的な意識向上を図る仕組みがあります</p> <p>意見や苦情について、入会説明会や入所時の個別説明、掲示で苦情解決窓口を周知し、意見箱も設置しています。苦情対応マニュアルにもとづき、本部と協議して速やかに対応する仕組みがあります。虐待防止は、本部新入社員研修や不適切行為・禁止行為研修、感情のコントロール研修、倫理研修などを受講し意識向上を図っています。職員は毎週セルフチェックシートと毎月心構えチェックシートで自己の振り返りを促しています。虐待が疑われる場合は、虐待対応マニュアルに則り、施設長から本部への報告をおこない、関係機関と連携する体制を整えています。</p> <p>地域資源の活用や地域貢献活動を通じて地域との関係づくりに積極的に取り組んでいます</p> <p>施設見学の随時受け付けや、ホームページでの情報公開により透明性を高めています。地域貢献として、乳幼児施設との交流事業や活動場所の提供、職業体験の受け入れをおこなっています。また、地域の高校生による防災講習や郷土歴史館のイベント参加など、地域の人や文化との関わりを持つ機会を設けています。自治体の連絡会や学区の地区懇談会、小学校と連携した通学路パトロールにも参加し、地域の安全にも貢献しています。さらに、高輪地区児童施設交流会では他の学童クラブとの交流を図り、地域全体で児童の成長を支える仕組みがあります。</p>		

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>さまざまな活動でリスクを予防し安全管理に努める組織的な仕組みと取り組みがあります</p> <p>法人内施設長で安全管理部を設置し、各施設の安全管理担当者が参加する年4回のセーフティ会議では、安全マニュアルの読み合わせや、各施設のリスクマネジメント実践シートの共有と検証をする組織的な仕組みがあります。ヒヤリハットや怪我の事例は毎月集計し、職員会議で共有しています。事故発生時は、事故報告書を作成して原因究明と再発防止策を職員全員で検討しています。施設内研修として危険予知トレーニング研修を実施し、非正規職員を含めた全職員が参加してさまざまな事例検討をおこない安全意識向上に努めています。</p> <p>災害対策と事業継続計画に関する体系的な取り組みを実施しています</p> <p>本部が防災マニュアルの一部として事業継続計画を策定し、事務所と玄関に設置して誰でも常時確認できるようにしています。地域の防災マップやハザードマップ、避難場所を室内に掲示し、ヘルメット、非常食、水などの防災備品の備蓄にも取り組んでいます。職員に対しては、定期的なマニュアルや事業継続計画の読み合わせ、毎月の避難訓練や研修の実施、緊急時連絡の訓練などで確認しています。利用者には、入会のしおりや配付物、クラブだよりを通じて災害時の対応を周知し、非常災害時の連絡手段について定期的な訓練で確認をおこなっています。</p> <p>個人情報の取り扱いは規程とルールを研修等で周知徹底し適切な管理に取り組んでいます</p> <p>本部は個人情報の取り扱いマニュアルを作成し、規程やルールを定め、コンプライアンス研修を全職員が受講して周知を徹底しています。法人はプライバシーマークを取得しており、毎年研修とテストを実施し確認しています。個人情報など重要書類は事務所内でのみ閲覧可能とし指定の保管場所で施錠管理しています。また、重要度の高い情報は共有できないようにネットワークに接続していない専用パソコンを使用してパスワード設定し、管理しています。利用者には、入会時に説明し、利用目的の明示や同意書の取得、開示請求への対応もおこなっています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>求める人材の確保と効果的な人員配置を実現するための組織的な体制を整えています</p> <p>採用は、本部採用チームが応募者の面接日程などを調整し、正社員は本部で筆記試験や適性検査の後、十分な説明と現場体験を経て採用しています。求人サイトにおいて求める人物像や施設の雰囲気をも示し、地方の大学や専門学校の就職フェアへの参加、地方の応募者へのリモート面接など幅広く求人活動を実施しています。人員配置については、本人の希望や将来性を考慮し、施設の状況に応じた適材適所の配置をおこなっています。個人面談や意向調査で職員の意志を確認し、常に基準以上の人員を配置することで、細やかな対応が可能な体制を維持しています。</p> <p>本部はさまざまな研修で職員の成長を支える組織的な育成体制を整備しています</p> <p>本部はキャリアプラン表を作成し、役職ごとの要件や研修内容を明示しています。本部新入社員研修やクラブリーダー研修など、役職に応じた研修に参加し、外部研修への参加も積極的に支援しています。隙間時間で学習できるオンライン動画研修も整備しています。研修後は報告書や職員会議で学びを共有し、全体のスキル向上に繋げています。職員は自己他己評価シートにて評価をおこない成果を確認しています。また、施設長は個別の指導計画を策定し、一人ひとりの意向やスキルに応じた育成をおこない、成長度合いを把握して助言などをおこなっています。</p> <p>職員が安心して長く働けるよう、定着と意識向上に向けた組織的な取り組みがあります</p> <p>就業規則に基づき、残業をしない取り組みや健康診断、ストレスチェックを実施し、職場環境の改善に努めています。新入職員には先輩職員がサポートするブラザー&シスター制度を導入し、風通しの良い環境を整えています。職員の意見を積極的に吸い上げるため、ミーティングでの意見交換や年複数回の個人面談をおこない、日頃のコミュニケーションも大切にしています。TO-DOリストの活用のほか、毎年年度始めに自己目標達成シートで目標を立て、達成を目指す取り組みがあります。また、年数回職員交流会を実施し、職員同士の親睦を深めています。</p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度は、事業者変更に伴い全職員が新たに配置された背景から、「安全性を保っていくこと」と「児童と保護者との信頼関係を築くこと」を目指し、安全面と関係性を重視した目標を設定しました。児童が混乱しないよう、従来の遊びや生活面のルールを大きく変えることなく運営し、職員間で話し合いながら徐々に変え、検証しながら取り組みを進めました。また、児童との関わりを深めるため、一緒に遊びながら特徴を把握し、日々のミーティングでその児童にふさわしい対応方法を共有しました。保護者との信頼関係構築に向けては送迎時に児童の様子を積極的に伝える取り組みもおこないました。これらの結果、安全面や信頼構築の自己評価での目標達成度は共に50%となりました。今年度は課題に対し非常勤職員も含めて職員間で危険予知トレーニングを実施し、職員一人ひとりの認識や意見のすり合わせをして意識向上を図っています。また、児童のトラブルや保護者対応の課題に対し、マネージャーや自治体の担当からの指導を受け、内容を共有して丁寧な対応を心がけました。今後は児童が安全性や自主性を児童自ら発揮できる取り組みや保護者とのコミュニケーション強化に取り組めます。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度、事業者変更に伴う運営体制の刷新を背景に、事業者や全職員が変わったため、まずは「安全性の確保」と「児童と保護者との信頼関係の構築」の2つを重要課題と設定しました。具体的な取り組みとして、事故報告書の検証から職員と話し合いを重ね、クラブ室の座卓配置を見直し、動線を改善することで安全性を向上させました。また、児童と一緒に遊んだり見守ったりすることで児童一人ひとりの特徴を把握し、その対応方法を職員間で共有する仕組みを整備しました。保護者との信頼関係構築に向けては、送迎時に児童の様子を積極的に伝えるなどのコミュニケーション強化を図りました。これらの取り組みにより一定の成果が得られましたが、安全意識やトラブル対応のさらなる向上を目指し、達成度を50%と自己評価しています。今後は、職員の安全面に対する意識を高めるための危険予知トレーニング研修の継続実施、児童が自ら安全性や自主性に対して発揮できるよう主体的な成長に繋げる取り組みや環境づくりを進める予定があります。また、保護者と児童の状況や環境を理解するため、積極的に保護者とのコミュニケーションを図る連携強化にも注力する予定があり、これらの取り組みに期待します。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

運動遊びや外遊びなど「活発な運動活動の促進」と、相手を思いやる気持ちを持つ「トラブルのない環境づくり」を前年度の重要課題としています。その理由として、専用運動スペースが遊戯室のみと限られている状況や、一部の児童間での言葉によるトラブルが見られたことを背景に、運動遊びの活性化と相手を思いやる気持ちの育成を目標に設定しました。具体的な取り組みとして、遠足先や運動場所の行き先を児童と話し合いで決定して、遠足や公園遊びを実施したほか、遊戯室でどの児童も平等に選んで遊べるルール設定の工夫をしました。また、トラブルへの対応として、「ふわふわことば、ちくちくことば」を出し合う取り組みや日々の帰りの会で友達が喜ぶ、傷つく言葉について話し合いを実施しました。これらの結果、児童が主体的に体験する機会が増え、言葉遣いへの意識も向上しましたが、対応職員の一部に偏りや消極さが見られたため、今後は職員間での共有や保護者との連携をより強化する予定です。また、児童が自らの体験を通して、目標を持って成長できるよう、一輪車やけん玉などの検定制度を導入し、環境づくりに取り組みます。さらに、自分自身や友達を大切にするよう支援をおこなっていきます。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度の重要課題として「運動遊びや外遊びを活発にする」と「相手を思いやる気持ちを持つ」を掲げています。活発な運動や外遊びの機会を増やすため、遠足の行き先を児童と共に選定し、近隣公園での遊びを定期的実施しています。また、遊戯室の利用ルールを明確化し、全ての児童が平等に遊べるよう工夫しています。児童間のトラブル防止と解決に向けては、「ふわふわことば、ちくちくことば」の取り組みを通じて、言葉の影響について児童の理解を深めています。さらに、日々の帰りの会で児童の声を聞き、職員との対話の機会を設けることで、互いの気持ちを共有し合う環境を整えています。職員の資質向上にも注力しており、セルフチェックシートを用いた定期的な振り返りや、禁止行為マニュアルの確認をおこなっています。また、児童が落ち着くためのスペースを確保し、職員間の連携を図りながら適切な対応を心がけています。今後の予定として、児童が自ら目標を設定し達成感を味わえる活動を通じ、児童の自主性と社会性を育む取り組みの計画があります。また、児童同士の思いやりを育む新たな取り組みの検討も進められており支援活動の充実に期待します。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>毎月のおたよりやホームページで、情報を確認できる環境を作っています</p> <p>保護者が必要な情報を適切に入手できるように配慮し、さまざまな手段で情報提供をおこなっています。毎月発行しているおたよりには、月間の活動内容やイベント予定、行事計画などを詳細に記載し、保護者に施設での児童の様子を分かりやすく伝えています。また、施設のホームページには、施設概要や年間活動計画、毎月のおたよりを掲載しており、保護者がいつでも情報を確認できるよう工夫しています。さらに、港区の学童クラブや児童館、放課GOなどに施設の案内や入会情報を設置し、地域全体で保育や子育ての支援に取り組んでいます。</p> <p>保護者にわかりやすい情報提供と、多様なニーズに対応する体制を作っています</p> <p>毎月発行するおたよりや施設のホームページには、イラストや写真を用い、わかりやすく情報を伝えることで、保護者が内容を詳細に理解できるように配慮しています。また、外国語対応として翻訳機を設置し、ネイティブ職員を配置するなど、多様なニーズに応じたサポート体制を整えています。障がいのある児童も安心して利用できるよう、学童クラブの入会案内には受け入れ体制や利用方法を明記しています。パンフレットやホームページの内容は、随時タイムリーな情報を反映させるなど、常に正確で最新の情報を提供する体制を整えています。</p> <p>施設見学で児童が過ごす様子を見てもらい、施設の特徴を説明しています</p> <p>電話での相談や施設見学の要望があった場合には、主に施設長や学童クラブリーダーが対応をおこなっています。施設見学は随時受け付けており、電話連絡や直接施設での申し込みが可能です。見学では、施設内を案内し、実際に児童たちが過ごす姿を見てもらいながら、施設の特徴や取り組みについて説明しています。1年生から6年生まで幅広い学年の児童が在籍し、15校以上の学校から通っていることや、ネイティブ職員による英語活動、身体を活発に動かして遊べる環境を整えていることなど、多様な特長を伝えています。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>保護者に基本的なルールやサービス内容を説明し、重要事項などの同意を得ています</p> <p>入会にあたり、港区学童クラブ等入会案内を用いて、基本的なルールや重要事項を保護者に説明しています。説明会に参加できなかった保護者に対しては、個別面談を実施し、入所に関する説明を丁寧におこなっています。また、サービス内容や利用者負担金についても、育成料やおやつ代などについて具体的に説明しています。さらに、説明の際には保護者の意向を確認し、アレルギー情報や写真使用に関する同意書などを収集し、記録しています。各項目の同意有無はリスト化し、職員全体で共有することで対応漏れを防いでいます。</p> <p>児童の個別事情を記録し、入会後の不安軽減のために個別対応をおこなっています</p> <p>児童の援助に必要な個別事情や要望を、生活状況調書や就労証明、児童表、ミーティングシート、配慮を要する対応の記録ノートに記録し、把握しています。入会直後には、新入児童が不安やストレスを軽減できるよう、生活の流れをそばについて確認するなどの個別対応をおこなっています。特に新1年生に対しては、勉強時間に職員が付き添ったり、自分の荷物管理ができるよう丁寧に援助したりしています。また、障がいのある児童の受け入れに際しては、入会前に個人面談をおこない、必要な配慮点を把握したうえで、受け入れ体制を整えています。</p> <p>年度末のありがとうの会で感謝を伝え、心温まる節目を作るよう工夫しています</p> <p>利用終了時には、児童や保護者が安心して次の生活へ移行できるよう、近隣の児童館や地域の利用可能なサービスについての案内をおこない情報を提供するなど、不安を軽減するための配慮をおこなっています。また、年度末にはありがとうの会を開催し、児童同士や職員との間で感謝の気持ちを伝え合う機会を設け、心温まる節目となるように工夫しています。さらに、来年度に学童クラブを利用しない児童やその保護者に対しては、職員から挨拶をおこない、放課後の過ごし方について不安がないかを丁寧に聞き取り、必要に応じて適切なアドバイスをしています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

児童の実態と保護者の意向を考慮し、計画作成と情報共有をおこなっています

育成支援の計画は、児童一人ひとりの実態や保護者の意向を考慮し、年間活動計画と月ごとの事業計画を作成し、長期的な目標を見据えた計画作成をおこなっています。日々のミーティングや職員会議では、個別の連絡帳や会話で得た情報をもとに、職員間で配慮点を話し合い検討しています。障がい児支援については、専門医の巡回指導から得たアドバイスを巡回指導記録に記録し、具体的な援助方法を検討しています。保護者会では年間活動計画や活動内容を詳しく説明し、保護者に英語プログラム体験に参加してもらい、理解を深めてもらうようにしています。

児童の状況を記録し、職員間で情報共有をおこない適切な支援を実施しています

児童一人ひとりの状況や変化を適切に記録するため、ミーティングシートや育成日誌、配慮を要する対応記録ノートを活用し、日々の観察や支援内容を記録しています。また、障がい児支援においては、生活状況調査票や巡回指導記録を用いて、一人ひとりの状況や必要な支援内容を具体的に記録し、職員間で共有しています。職員ミーティングでは計画の進捗状況の確認をおこなうとともに、必要に応じて見直しをおこない、児童一人ひとりの発達や状況に応じた適切な援助が実現し、必要な情報を職員全員が把握できる体制を整えています。

児童に関する情報を記録し、職員全員で共有して支援内容を改善しています

職員間で児童に関する情報を共有するため、生活状況調査票や巡回指導記録、育成日誌、配慮を要する対応記録などを活用しています。これらの記録は職員全員が確認可能な状態にしており、出勤時に内容を把握したうえで業務にあたるよう徹底しています。児童や保護者の状況に変化があった場合には、毎日のミーティングで報告し、情報をミーティングシートに記録することで全員に共有しています。また、職員会議や日々のミーティングで、児童の具体的な事例や課題を取り上げて話し合い、支援内容の改善に努めています。

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>児童のプライバシーを保護し、安全性を確保するための対応を徹底しています 児童の個人情報を外部とやり取りする際には、保護者の同意を得たうえで、パスワードを設定したファイルを用いるなど、安全性を確保しています。新たに個人情報が必要となる場合や変更が生じた際にも、都度保護者に確認をとり、同意を得てから進めるよう徹底しています。日常的には、児童のプライバシーに関する話を児童のいない場所でおこなうほか、職員がプライベートで施設の情報を話したり、SNSに投稿したりしないよう教育をおこなっています。児童が私立小学校の制服を着替える際に職員休養室を利用し、他人の目に触れないよう配慮しています。</p> <p>児童の意見を尊重し、言葉遣いへの意識を高める取り組みをおこなっています 児童の意思を尊重するために、一人ひとりの意見や気持ちを丁寧に聞き取り、個々の特性に応じた対応をおこなっています。児童同士の意見が食い違った場合には、双方の話を聞き、公平に意見を尊重するよう努めています。また、強い口調や否定的な言葉が見られた際には、ふわふわ言葉とちくちく言葉をテーマに意見交換の場を設け、言葉の大切さを考える機会を提供しています。この取り組みにより、徐々に強い口調が減少し、言葉遣いへの意識が向上しました。帰りの会では、自分の意見を発表できる時間を確保し、意見や気持ちを話せる場を作っています。</p> <p>保護者や児童の要望に配慮し、職員間で情報を共有しながら対応しています 児童表や個別面談、日々の会話を通じて児童や保護者の価値観や要望を把握し、可能な限り柔軟に対応しています。特定の生活習慣や要望がある場合には、他の児童との調和を保ちながら、その要望に寄り添うよう努力しています。また、児童間でトラブルが発生しないよう、日常的な観察や早期発見を心がけ、相手を傷つけるような言葉や行動があった際には迅速に対応しています。必要に応じて双方の保護者に報告し、本部とも情報を共有しながら丁寧な対応を心掛けています。さらに、職員間で対応方針を共有し、定期的に事例検討をおこなっています。</p>			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>業務手順を明確にし、職員全員でマニュアルの内容を確認しています 施設運営マニュアルや職員マニュアルなどを整備し、業務の基本事項や手順を明確にしています。これらのマニュアルは本部や区が策定したもので、港区学童クラブマニュアルや規定、施設運営マニュアルや事務マニュアルなどを活用しています。また、区が提供する書式を取り入れ、必要な手順や規則を具体的に示しています。年度始めには職員全員が内容を確認し、共通理解を深める場を設け、全マニュアルは書棚に保管し、職員が必要ときに確認できるようにしています。新入社員に対しては、本部が中心となってマニュアルの周知や説明をおこなっています。</p> <p>定期的な点検でマニュアルの内容を見直し、業務の質を保っています 定められた基本事項や手順が適切に実施されているかを確認するため、定期的な点検や見直しを実施しています。本部が作成したマニュアルにもとづき、改善が必要な点が見つかった場合はその都度、内容を改善し、職員全体に共有しています。見直しの時期については、最低でも年に1回はおこなうことを基本とし、必要に応じて随時修正を加える体制を整えています。これにより、業務の質を保ちながら利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応し、個別の状況に応じた支援の提供に努めています。</p> <p>職員や保護者、児童の意見を反映し、業務の改善をおこなっています 業務の基本事項や手順の見直しにあたっては、職員や保護者、児童から寄せられる意見や提案を反映する仕組みを整えています。職員は日々の業務の中で感じた、遊戯室のルールやタブレットの使用法、おやつのおかわり方法などについて改善点を提案し、具体的な見直しがおこなわれました。また、施設内に設置した「なないろBOX」を通じて、児童が直接意見を伝える場を設け、新しい玩具の使い方や予約表の作成など、要望を反映しています。保護者からの意見は連絡帳や日々のコミュニケーションで把握し、必要に応じて対応を検討し改定しています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4																
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	28/28															
1	<p>評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(0000)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	<p style="text-align: center;">評価項目1の講評</p> <p>児童の発達に応じた支援をおこない、安心して過ごせる環境を提供しています</p> <p>児童一人ひとりの発達を把握するため、保護者との送迎時や個人面談を通じて日々の様子を丁寧に聞き取り、その内容を個人面談記録や児童票、生活状況調査票などに記録しています。特に新1年生に対しては、一定期間職員が小学校まで迎えに行き、登室を支援する体制を整えるほか、施設での過ごし方や荷物の管理方法についても丁寧に説明し、自立を促しています。集団生活においては、児童一人ひとりの意見や気持ちを尊重し、受け止める姿勢を大切にしています。トラブルが発生した場合も迅速に対応し、安心して過ごせる環境作りを心がけています。</p> <p>児童同士の交流を促進し、トラブルを冷静に解決できる環境を整えています</p> <p>入会進級お祝い会では、児童や職員が自己紹介をして、簡単なゲームを通じて交流を深めています。日々の生活でもレクリエーションや集団活動を計画的に取り入れ、普段交流の少ない児童とも関わる機会をつくり、年齢や発達、習慣の違いを持つ児童が、お互いを尊重できるようにしています。トラブルが発生した場合は、当事者の意見を聞きながら冷静に話し合える環境を整え、周囲の児童への聞き取りをおこないながら状況を把握し解決しています。これらの状況や対応内容は毎日のミーティングで共有し、統一した支援ができるよう努めています。</p> <p>配慮が必要な児童に個別対応し、職員間で支援情報を共有しています</p> <p>配慮が必要な児童に対して個々の発達状況や生活状況を把握し、適切な援助をおこなうよう努めています。職員が一対一で対応しながら、状態に応じて他の児童との遊びを促し、良好な関係性を築けるよう援助しています。一緒に遊ぶことが難しい場合でも、担当職員を配置して安心して過ごせるように配慮しながら、支援しています。職員間では、日誌や配慮を要する対応記録、ミーティングシートなどを活用して情報を共有するほか、配慮を要する児童への対応に関する研修や、配慮を要する児童対応マニュアルの活用を通じて理解を深めています。</p>	
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																
2	<p>評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(000)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当	<p style="text-align: center;">評価項目2の講評</p> <p>児童の自主性を育むため、活動に自由に参加できる環境を整えています</p> <p>遊戯室では運動遊び、室内では半分を座卓スペースとして設け、ボードゲームやカード遊び、ままごとなど多様な遊びができるスペースや、学習、おやつ対応など活動ごとに用途を分け、自由に行き来できる仕組みを整えています。また、帰りの会や誕生日会、夏祭りなどのイベントでは、児童が司会や進行を担当することで、自主性や自発性を育む機会を設けています。遊びの種類や内容、ルールについては、職員が定期的にミーティングを実施し改善を図るとともに、児童の意見も取り入れ、主体的に遊びに参加できる環境作りを進めています。</p> <p>児童が主体的に集団活動に参加できるよう、安全を確保し支援しています</p> <p>児童が集団活動に主体的に関われるよう、職員も遊びに参加し、児童たちの意見や発想を取り入れながら、安全性を確保しつつ活動を進めています。ボール遊びなどでは、学年や体格の違いによる力の差を考慮し、児童同士が安全に楽しめるような組み合わせを工夫しています。また、集団生活が苦手な児童に対しては、職員が積極的に声をかけ、遊びと一緒に参加することで安心感を与え、少しずつ集団活動に馴染めるよう援助しています。児童が遊びに慣れて楽しめるようになった段階で、職員は見守る姿勢に移行し、自発的な関わりを促しています。</p> <p>ルールを守りながら自主的に遊び、片付ける習慣を身につけられるよう支援しています</p> <p>友だち同士の遊びの中で、一緒に使う、順番を守る、貸してと言うなどのやり取りが自然にできるよう、職員が必要に応じて声掛けや見守りをおこなっています。また、遊んだおもちゃを自分で片付けられるよう、使用後に声掛けをしながら片付けの習慣を促しています。環境構成としては、入室から遊びに入るまでの流れや、玩具、タブレットの使い方のルールを表示し、児童たちが自主的に確認できるようにしています。さらに、児童自ら「部屋で走らない」「おもちゃを投げない」などの注意書きを作成し、自分たちの行動を意識する工夫をしています。</p>				
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>児童が協力し達成感を味わえる行事を企画し、成長の機会を提供しています 児童が進んで取り組める行事を企画し、楽しみながら参加できるよう工夫しています。行事の目的は、児童が協力し合いながら達成感を味わい、多様な体験を通じて成長する機会を提供することです。レクリエーション集会や工作集会では児童にやりたい遊びを聞いたり、事前に見本となるものを展示したりして、児童が興味を持てるようにしています。また、行事内容を室内のカレンダーに書き入れ、わかりやすく伝える工夫もしています。夏祭りでは、企画から準備、当日の運営まで児童たちが主体的に関わり、達成感を味わえるように配慮しています。</p> <p>児童が主体的に意見を出し合い、行事の企画運営に関わる機会を提供しています 児童が主体的に意見を出し合いながら、活動や行事をつくり上げていく機会を設けています。帰りの会では、司会を児童たちの立候補で決め、司会者がやりたいゲームを選ぶ形で進めています。また、夏祭りでは実行委員を募集し、児童がどのような内容を実施するか相談しながら決定しています。遠足の行き先についても、児童の意見を聞き取り、みんなで話し合っ決めてるようにしています。このように、児童が積極的に意見を出し合い、活動や行事の企画・運営に関わることで、責任感や協調性を育むことを目指しています。</p> <p>保護者に行事の意図や重要性を説明し、協力を得る取り組みをしています 行事や活動に対して保護者の理解と協力を得られるよう、年度始めには年間行事予定を配布し、各行事の詳細については事前にお便りを通じて丁寧に説明しています。夏休み前の保護者会では、夏祭りを児童たちが企画運営する意図を説明し、行事を通じて主体性や達成感を育む重要性を共有しています。また、行事当日は、児童が一生懸命に作り上げた成果を保護者に見てもらい、成長を共に喜び合える場を設けています。特に、実行委員として立候補した児童の意欲や日々の取り組みを保護者に伝え、当日の出席を促すなどの働きかけをおこなっています。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	●非該当
評価項目4の講評		
<p>明るく楽しい雰囲気作りをおこない、児童が安心して登室できるよう配慮しています 児童が登室した際には、「おかえりなさい」と元よく挨拶して受け入れ、安心感や期待感を持って通える雰囲気作りを心掛けています。出欠席の確認は事前に提出された予定表カレンダーを活用し、予定と異なる場合には保護者に迅速に連絡を入れる体制を整えています。欠席しがちの児童には、登室時に積極的に声をかけたり、一緒に活動をしたりして馴染めるよう援助しています。また、児童が生活の見通しを持って過ごせるよう、日々のスケジュールを掲示したり、活動内容をあらかじめ伝えたりするなどの工夫をしています。</p> <p>児童が見通しをもって生活できるよう、視覚的な工夫を取り入れています 児童が自ら行動を選択し次の活動に備え、自発的に活動を楽しみながら有意義に過ごせるような工夫を取り入れています。室内には下校ボードを活用し、一人ひとりの帰宅時間が分かるように個人名の磁石を貼り、児童が自分の帰宅時間を視覚的に把握できるよう工夫しています。また、遊戯室での遊び内容や時間をクラブ室のボードに明記し、活動の見通しを持てるよう支援しています。職員は児童一人ひとりに寄り添いながら、活動内容や時間の区切りを共有し、快適で安心感のある生活を支援しています。</p> <p>戸外活動を安全におこない、児童が主体的に参加できる環境を整えています 習い事などの理由でおやつや食事の時間が他の児童と異なる場合は、遊びの空間と分けてテーブルを設置し、ゆったりと食べられるようにし、他の活動と混在することなく安心して過ごせる環境を整えています。また、戸外活動をおこなう際には、多くの児童が参加できるように事前におたよりで周知し、スケジュールの調整をしています。移動前には交通マナーの説明をおこない、10人程度のグループに分かれて安全に移動できるよう配慮しています。このような工夫により、児童が快適で安全な環境の中で、主体的に活動に取り組むことができるようにしています。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校と連携し、通学路での安全対策や感染症対策を適切に指導、実施しています</p> <p>学校から学童へ向かう道中でトラブルがあった場合には、学校の担任や教職員と情報を共有しながら対応をおこない、問題の早期解決を図っています。また、学童クラブへの通学路については、通学路を指定し、安全を確保するように指導しています。学校との緊急連絡体制としては、学校の連絡先に電話を入れ、必要に応じて担任に繋いでもらい、状況を共有しています。さらに、感染症の発生時には学校から区の所管課を通じて連絡があり、その情報を元に学童クラブでの感染症対策を迅速におこなっています。</p> <p>学校と密に連携し、不登校の児童に柔軟に対応できる体制を整えています</p> <p>不登校などの課題を抱える児童に対し、学校との情報共有を密におこない、児童の生活の連続性を保障し、不安や課題に柔軟に対応できる環境を整えています。実際のケースはまだありませんが、状況が生じた際には、区の所管課に確認し、学校の担当者と連携を図りながら適切に対応することができる体制を整えています。必要に応じて学校の担当者や面談や話し合いをおこなうなど、児童の気持ちに配慮した支援を検討しています。具体的な相談内容に応じ、児童個人の話は担任へ、学校全体に関することは副校長へ連絡する体制を確立しています。</p> <p>巡回指導を通じて職員間で情報共有し、個々に応じた援助をおこなっています</p> <p>障がいのある児童や養育環境で特に配慮が必要な児童の援助においては、教育機関や福祉関係機関との連携を大切にしています。年2回の巡回指導では、専門の先生に相談し、学童クラブでの様子や対応を含めて報告しています。報告時には、職員間で共有した情報をもとに、さまざまな視点から児童の姿を多角的に捉えるよう心がけています。また、巡回指導の記録は巡回シートに残し、職員間で情報を共有しています。必要に応じて学校の担当者とも話し合いをおこなう体制を整え、児童の個別のニーズに応じた援助ができるよう配慮しています。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつの時間や食育活動で児童の興味を引き出し、安心できるおやつを提供しています</p> <p>おやつの時間は一斉に設定し、遊びに気を取られず楽しく落ち着いて食べられるよう配慮しています。月ごとの誕生日会では、通常のおやつより特別感のあるケーキやアイスなどを提供し、児童たちが心に残るひとときを楽しめるようにしています。さらに、毎月1回食育活動を取り入れ、職員が季節の果物について説明をしたり、産地や種類に関するクイズを出したりすることで、食べ物への興味や理解を深める工夫をしています。基本的に、おやつは専門業者から提供され、カロリーや栄養バランスが考慮されているため、安心して食べることができます。</p> <p>おやつは栄養バランスを考慮し、児童が楽しみにできるメニューを提供しています</p> <p>学校がある日は、おやつを午後4時に一斉に提供し、みんなで一緒に食べて、安心して楽しい時間を過ごせる環境作りを心がけています。おやつの内容は基本的には3品程度で、栄養バランスや味の偏りがないよう配慮しています。また、お誕生日会のおやつは、その月のお誕生日の児童たちにメニューの希望を聞き、特別感を得られる内容にしています。普段からも児童の希望を聞き入れる機会を設け、近隣のスーパーなどで購入したドーナツやフルーツ、アイスなどもおやつに取り入れ、児童が楽しみにできるよう努めています。</p> <p>アレルギー対応に細心の注意を払い、誤食防止のための確認体制を整えています</p> <p>事前に保護者からの聞き取りや提出書類に基づいてアレルギーを把握し、該当成分が含まれるメニューの場合は代替品を提供しています。提供前には職員がダブルチェックをおこない、誤食を防ぐ仕組みを整えています。また、専門業者から納品されるおやつはアレルギー成分が分かりやすく表示されており、安全性を確保しています。また、専用トレイや個別に氏名とアレルギー食品を記載したプレートを使用するなど細心の注意を払っています。職員は、食物アレルギー対応マニュアルなどを活用し、適切な対応を学ぶ機会を設けています。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>児童の健康や安全に対する意識を高めるため、衛生管理と予防活動をおこなっています</p> <p>児童が病気やけがを予防する意識を高められるよう、遊びやスポーツ教室を通じてストレッチの重要性やけがをしにくい動き方を伝えています。また、入室時やおやつ前に手洗いを促し、衛生管理をおこなっています。けがが発生した場合には、けがの初期対応マニュアルに則って迅速に対処し、状況や対応をけがの記録に詳細に記録して職員間で共有しています。感染症予防のために、空気清浄機の常時作動、室内換気の実施に加え、玩具や遊具の定期的な消毒をおこなっています。特に土曜日には重点的な消毒を実施し、感染症防止に努めています。</p> <p>医療的ケアが必要な児童に対し、専門機関と協力し、安全な環境を提供しています</p> <p>医療的ケアが必要な児童に対して、専門機関や関係機関と密に連携を図る体制を整えています。区の方針にもとづき、必要な配慮点や対応方法について区から情報提供を受け、職員間で共有しています。また、入会前には保護者との面談をおこない、具体的なケア内容や配慮点について詳しく話し合い、適切な職員配置や対応方法を計画しています。保護者が安心して利用できるよう、本部や区の担当者、専門医とも連携しながら対応し、さらに、児童が安全に過ごせる環境を整え、医療的ケアが必要な状況においても柔軟に対応する仕組みを構築しています。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の個別の事情に配慮し、安心して相談できる環境作りをしています</p> <p>保護者の就労や子育ての事情など、個々の事情に配慮した支援をおこなっています。入会説明会や夏休み前の保護者会に参加できなかった保護者には、個別面談を実施して丁寧に説明し、情報が行き届くように努めています。また、保護者会では、乳幼児が遊べるコーナーを設置し、小さなきょうだいを連れての参加にも配慮しています。保護者への情報提供や伝達事項がある際には、電話対応が可能な時間帯を事前に確認し、保護者の都合を最優先に考慮し安心して相談や質問ができる環境を構築しています。</p> <p>職員と保護者が信頼関係を深めるための積極的な交流をおこなっています</p> <p>年3回の保護者会では、自由に話したり、育児相談をおこなったりする場を提供し、保護者同士のコミュニケーションを深めています。職員もこれらの場に参加し、保護者との関係を築くことに努めています。さらに、職員と保護者の信頼関係を深めるため、玄関前に職員の紹介写真と氏名を掲示したり、送迎時には積極的に会話を交わしたりし、児童の特徴や日々の様子を共有しています。個別の連絡帳を活用し、保護者のコメントには丁寧に対応しながら、児童の成長や状況を共有することで信頼関係を築いています。</p> <p>保護者に児童の成長や活動を共有し、具体的に伝える仕組みを整えています</p> <p>毎月予定カレンダーに登室予定を記入してもらい、出欠席を確認することで児童の安全を確保するよう努めています。今後はICTシステムを活用し、入退室管理を効率化する予定です。保護者会では活動の様子をスライドで紹介し、児童の成長を共有し喜びを分かち合う機会を設けています。また、遠足などのイベントの様子をドキュメンテーションとして写真で掲載し、保護者が児童の経験を具体的に把握できるようにしています。さらに、個人面談の前には職員全員で対象児童の情報を共有し、児童の成長や成果を保護者に詳細に伝えています。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>自然とのふれあいや創作活動を豊富に取り入れ、児童の成長を促進しています</p> <p>ゆかしの杜の敷地内や近隣のどんぐり公園での落ち葉拾いを実施し、その後落ち葉を活用したしおり作りをおこない、自然とのふれあいを通じて創作活動を楽しむ機会を設けています。また、高輪地区の学童クラブ施設の児童が年に1回集まり、ドッジボールやレクリエーションをおこなうイベントを開催しています。このイベントの企画や運営には職員も年4回程度集まり、情報共有や交流を深めています。さらに、1階の子育てひろばと合同行事をおこない、小さなこども達やその家族とも触れ合う場を設けています。</p> <p>地域との触れ合いを通じて、児童の文化理解や多様な体験を提供しています</p> <p>定期的に地域のボランティアの方に本の読み聞かせをしてもらい、児童が地域の大人との触れ合いを通じてさまざまな物語に親しむ場を提供しています。また、ゆかしの杜の歴史展示見学や体験、風鈴づくりなど季節にちなんだ工作イベントへの参加を通じて、地域文化や歴史への理解を深めています。さらに、地域の方々による講談や日本舞踊体験を開催予定としており、伝統文化に触れる機会を提供することで、児童が多様な視点を持てるよう支援しています。また、応募があれば職業体験やボランティアの受け入れもおこなう体制を整えています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル①	英語に親しむ機会を提供し、児童が楽しみながら学べる環境を整えています	
内容①	日常的に英語に親しむ機会を提供するための取り組みが充実しており、常勤のネイティブ指導員を配置し、英語での会話を取り入れることで、自然な形で英語に触れる環境を整えています。帰りの会では、週に2回、英語を使ったゲームをおこない、月に1回は「エンジョイ・イングリッシュ」と題した特別活動を通じて、児童が楽しく英語を学び、興味を育む時間を設けています。さらに、保護者会では保護者に英語体験を提供することで、学童クラブでの英会話活動への理解を深め、信頼関係を築く工夫をしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	集団活動や運動遊びを取り入れ、児童が安心して参加できる場を提供しています	
内容②	大勢で楽しめる遊びやイベントを積極的に取り入れ、児童が仲間とともに楽しみながら成長できる環境を整えています。日頃から遊戯室を活用し、ドッジボールやてんかなどボールを使った運動遊びをおこなうほか、さまざまなレクリエーションや集団活動を取り入れています。また、月に1回のお楽しみDAYや帰りの会で行われる日替わりのゲームなど、児童が楽しみにできる行事を定期的に行っています。集団活動が苦手な児童にも無理なく参加できるよう配慮しており、見学や職員の援助を通じて、一人ひとりが安心して関わられる環境を大切にしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル③	児童の意見や気持ちを尊重し話し合いで決定するなど主体性を育む運営を実施しています	
内容③	児童の意見や気持ちを尊重し、主体性を育む運営に取り組んでいます。日頃の遊びなどは児童の意見を聞いてから実施し、意見箱「なないろBOX」を活用して実現可能な提案を取り入れています。遠足の行き先は帰りの会で話し合い、多数決で決定しています。また、夏祭りやお楽しみ会では実行委員を募り、児童主体で企画や運営を進めています。新しいおもちゃの使い方や順番も児童が話し合いで決め、予約表を作成するなど自主的な管理を促しています。施設のルールも職員と児童が話し合いで決定することで、児童自身がルールを守る意識を高めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異学年交流を通じて、児童の自主性や協調性を育む活動を取り入れ、積極的に学び合い成長する機会を提供しています
	内容	1年生から6年生まで幅広い学年が在籍しており、異学年交流を通じて児童同士が学び合い、自主性や協調性が育まれる環境が整っています。上級生が低学年のこどもたちに生活や遊びを教えたり、高学年が主体となってイベントの企画や運営をおこなったりするなど、リーダーシップを発揮する機会が豊富です。また、低学年の児童は上級生から良い影響を受け、一輪車やボードゲーム、カードゲームといった難しい遊びを早くから覚えたり、帰りの会の進行を一緒におこなったりするなど、積極的に活動に取り組む姿が見られます。
2	タイトル	自然豊かな環境と安全な施設で、児童が安心して過ごし、豊かな感性を育むさまざまな活動を提供しています
	内容	自然豊かで安全な環境に恵まれた施設であり、児童が安心してのびのびと過ごせる環境が整っています。施設の周辺にはゆかしの杜やどんぐり公園があり、散歩や自然観察会を通じて四季折々の自然に触れ、豊かな感性を育む活動が充実しています。さらに、最新の室内設備や自動ドア、エレベーター、防災設備が整備されており、定期的な点検により安全性が確保されています。また、空気環境の測定をおこなうなど、衛生面へ配慮した取り組みをおこなっています。建物の入口には警備員が常駐しており、防犯面でも高い安心感がある環境です。
3	タイトル	地域の人や施設との交流を促進して学童クラブと児童が地域との関わりを深める多彩な取り組みを実施しています
	内容	児童は、同施設内、ゆかしの杜1階にあるあつびい白金台やみなど保育サポート白金台の乳幼児と夏祭りやハロウィンイベントなど行事を通じて交流をしています。また、同じく同施設内の郷土歴史館の催しにも参加し、工作や展示見学を通じて地域の文化に触れる機会があります。また、高輪地区児童施設連絡会では高輪地区の他の学童クラブとの情報交換や交流があり、年1回児童が集まり、ドッジボールやレクリエーションなどの高輪交流会をおこなっています。遊戯室の活用やイベントの工夫も進めており、今後もさらに多様な交流を促進していく方針です。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	児童が意欲的に通える環境を目指し、他者への配慮を育む活動や遊びの多様化など、魅力ある環境作りが期待されます
	内容	児童が、意欲的に学童クラブに通いたいと思えるような環境作りを目指して取り組んでいます。児童同士の良好な人間関係を育む活動として、強い表現の言葉を減らすために、ふわふわ言葉とちくちく言葉について児童と話し合いをおこないました。今後も言葉の重みや大切さを伝える機会を増やし、児童が他者への配慮を身につけられるような活動を取り入れていく予定です。また、活動内容に新たな魅力を加えたり、遊びの種類や遊具をさらに多様化させたりすることで、児童が飽きることなく楽しめる環境を提供していくことが期待されます。
2	タイトル	さらなる職員のスキル向上と全体的な能力強化を図る取り組みの継続に期待します
	内容	職員の児童対応や保護者対応、施設運営に関するスキル向上を目指し、他の施設との交流研修や先輩職員からのアドバイスを積極的に取り入れています。特に、児童同士のトラブル時の仲裁や介入、適切な声掛けについては、ミーティングで全職員が意見を出し合い、対応方法を共有することで、全体の意識向上に努め、より迅速かつ適切な対応ができるようにしています。一方で、経営層は職員による個人差があるなど、改善の余地があると認識しています。児童と保護者との信頼関係構築のため、職員のさらなるスキルアップを図る取り組みに期待します。
3	タイトル	安全性と衛生面をより一層強化するため、施設内整備と点検を徹底するさらなる取り組みに期待します
	内容	児童が安心して過ごせる環境を整えるため、施設内の整備と点検に力を入れています。備品や遊具の整理整頓と安全性の点検を徹底し、職員間で共有することで安全意識を高めています。また、清掃や消毒など衛生面への配慮も強化し、清潔な環境づくりに取り組んでいます。さらに、安全面での配慮不足による怪我の防止を目指し、職員が様々なケースを想定して対応できるよう施設内研修を実施する計画があります。今後も児童がより快適で安全に過ごせる為の環境づくりと、整備と点検を徹底する取り組みに期待します。